

## 特別支援学校における外国語科および社会科の授業づくり

尾上 利美（和歌山大学教育学部）・岩野 清美（和歌山大学教育学部）

栗本 佳代（和歌山県立紀北支援学校）

### 1. 研究課題について

紀北支援学校で行われるテーマ設定研修会に参加し、外国語（英語）科および社会科における「子どもにつけたい力」と「教科で大切にしたいこと」を明確にした授業づくりについて、検討を行った。

### 2. 取り組みについて

令和2年度テーマ設定研修会は、8月から月に1回開催された。尾上は「高等部 英語3グループ」、岩野は「中学部 2年生2グループ」のテーマ設定研修会へそれぞれ参加し、各グループに所属の先生方と単元からの授業づくりについて検討した。

### 3. 「中学部 2年生2グループ」「高等部 英語3グループ」のそれぞれの研究まとめ

#### (1) 中学部 2年生2グループ

<p><b>社会科の授業における 単元からの授業作り</b></p> <p><b>〈内容〉</b> 社会科 単元「マナー」 中学部2年生2グループ (小学部3段階)</p>	<p><b>〈目的〉</b></p> <p>①生活に生かせるマナーを身につけるための学習展開を検討する</p> <p>②今後、中学部で「マナー」の授業をする際に、学部の財産として活用できる<b>単元表</b>や<b>指導案</b>を作成する</p> <p><small>岩野 清美 尾上 利美</small></p>	<p><b>〈進め方〉</b> <b>アドバイザー:岩野先生を迎えて</b><small>(和歌山大学教育学部)</small></p> <p>①生徒個々の実態、グループの実態、学習指導要領、学習内容表の確認</p> <p>②各々から単元計画、授業アイデアを提案</p> <p>③目標、評価の観点、授業展開の検討(第4次の授業)</p> <p>④指導案作成、授業実践「電車のマナー」</p> <p>⑤授業のビデオ視聴、KJ法</p> <p>⑥生徒の学びや成長について共有</p>
--	--	---

1

2

3

<p><b>〈①～④の取り組みと5つの教師の学び〉</b> ～テーマ研を通して～</p> <p>①単元表（授業）をつくる →研修部アセスメントシートの活用</p> <p>※生徒とグループの実態把握</p> <p>※生活に汎化させていくために「<b>つけたい力</b>」</p>	<p>②授業展開の工夫を情報交換</p> <p>※<b>授業アイデア</b></p> <p>↓</p> <p>校外学習にむけて、公共施設の利用の仕方、身近な公共施設を知る、身近な環境下でのマナー、ルールとマナーの違い、学校のまじりやルール、コロナ禍での新しいマナーや新しい生活様式等</p>	<p>※<b>資料</b></p> <p>↓</p> <p>クイズ、鉄道協会のマナーアンケート、マナーCM</p> <p>※<b>ワークシート</b></p> <p>↓</p> <p>校外学習に向けての事前学習シート、マナー確認シート、単元ごとの振り返りシート等</p>
--	---	---

4

5

6

③単元表と照合  
→目標や内容がグループの実態に沿っているか検討

④公共施設  
・「公共の場」として学習  
・「公共」の捉え方は？  
必ずしも施設のみではない、みんなの場所、家から一歩出ればすべてが「公共」になる

7

⑤第4次授業のアイデア  
や指導案の検討

1：公共の場とはどんな場所かわかる  
2：学校でのマナーから大切なことを学ぶ  
3：身近な公共の場から学ぶ ～安全に過ごし、公共を守る～  
4：電車の乗り方からマナーについて考える  
5：コロナ禍でのマナーを学ぶ

8


〈岩野先生からのアドバイス〉

- ・「公共」をどう教えるか
- ・ルールとマナーのちがいは？  
(単元計画を凝視してみると、ルールとマナーが混在)
- ・50分の中で押さえるべき内容、それをどう伝えるか
- ・生活への汎化
- ・T.Tの動きの確認
- ・ロールプレイ→誤った行動をどのように修正するか、なぜ悪いのかを考える
- ・自分の生活をどうしたいか、選択できる場
- ・生活経験を重視した学習順(学校→道場→電車)
- ・だんだん難しくすることで、生徒の考えも深まっていく

9

⑥岩野先生からのアドバイスを受けて  
※授業実践のビデオ視聴  
・KJ法 (以下3点について)

～知識・技能～  
①電車やホームでのマナー、きまり  
②体験的な活動を通してマナーやルールへの理解を深める



10

～思考力・判断力・表現力～  
①マナーを守るべき理由  
②迷惑行為について  
③ロールプレイを客観視  
④マナーの書誌

～学びに向かう力～  
①学びを日常生活に生かす、汎化  
②クイズを通して理解を深める  
③マナーを守って行動することへの心がけ  
④自分ならどうする？

11

〈ビデオ視聴後のディスカッションより〉

- ①授業中の生徒の様子を見守る教師の雰囲気がかっこいい！
- ②生徒が社会に出てからを想像した授業づくり
- ③日常生活にどう生かしていくか  
→学びの価値にどう繋げるか
- ④生徒の言葉の獲得
- ⑤学びの見直しを...

12

〈岩野先生の見解①〉

- ・授業スケジュールの提示について
- ・この授業で何を学ぶか
- ・全体で共有すべきことは？
- ・授業の中で使われた言葉は言葉の獲得に繋がる  
→生徒の「学びたい」という意欲
- ・卒業後のこと  
→学びを生徒と生活の接続に

生活に汎化

13

〈岩野先生の見解②〉

ロールプレイによる気付き  
→生徒集団で共有できた！  
→「学び」のひろがりを感じる中  
授業の最後に取り組みワークシートの必要性和意味は？

一気にお勉強感が...

14

見解②への考え  
→学習のまとめ、汎化のきっかけ

- ・体験、イメージしたことを保持する
- ・生活にイメージしたことを落とし込む

15

〈岩野先生の見解③〉

グループ学習から生徒がクラスに戻った時、担任と学びの共有はできているか？  
→グループ担当者とクラス担任の「接続」は？

16

見解③への考え  
→日々の情報交換

- ・クラス担任がグループ学習に入っていない場合、授業後は連絡帳を通して情報交換をして「接続」を行っている。

17

①～③を通して

- ・学習の時間だけでは汎化されにくい
- ・学校生活の中で学習を生かせるような場面設定をする

支援学校ならではの取り組み

18

⑥生徒の学びや成長についての共有点  
※大切にしたいこと

- 学びのステップ
- 子どもの「わかった！」「できた！」「やりたい！」を豊かに
- アセスメントの活用
- 生活への汎化
- 教師間の共有

19

(2) 高等部 英語 3 グループ

1. 研究テーマの設定

生徒の思い

- 単語は聞いてなんとなく意味が分かるが、アルファベットは意味である。
- 全体的に自信が無いが、FLTの時は意欲的で頑張っている。
- 英語への苦手意識はあるが、意欲がないわけではない。

教師の思い

- 自信や達成感を持ってもらいたい。
- アルファベットが読めるようになってもらいたい。
- あいさつや自己紹介など、練習したことは自信をもって取り組んでほしい。

研究テーマ

「英語嫌い！」を「おもしろいやん」と思える授業作り

2. 単元計画の作成

単元名 「英語で相手にたずねよう」

- 目標
- What, When, Where, Who等を用いた疑問文を読んだり、聞いたりして意味がわかる。(英・読)
  - What, When, Where, Who等を用いた定型表現を使って質問でき、答えることができる。(英・発・読)
  - 何を問われているかわかり、自分で答えて答える。(英・発・読)
  - 疑問詞を用いて主体的にグループの仲間と外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学び・人)

- 単元計画
- |      |                    |      |          |
|------|--------------------|------|----------|
| 1時間目 | Whatを用いて           | 2時間目 | Whoを用いて  |
| 3時間目 | Whereを用いて          | 4時間目 | Whenを用いて |
| 5時間目 | 4つの疑問詞を用いて(まとめと復習) |      |          |

3. 授業の分析と改善

1時間目 「Whatを用いて」

学習活動

- What ~ do you like?の定型表現を使って、友達や先生の好きなものをたずねる。
- 使う単語は事前に学習する。

分析と改善

- 文法よりも、場面の中でWhatの意味をとらえられるということを重視するとよい。
- 問いかけや返答には、手順が必要。時間短縮の為ワークシートにあらかじめ英語をいれておく方がよい。
- 導入での単語学習にゲームを取り入れ行うとよい。
- 発音では『チャンツ』を適宜取り入れていくこととする。

2時間目 「Whoを用いて」

学習活動

- 一人の先生について「Who is this?」、「How old is he?」、「How many dogs does he have?」などの表現を使って、質問し、生徒が答えるようにした。
- 学習した表現を使っているインタビュー活動

分析と改善

- 先生についての質問をすることで生徒の興味をひきつけやすかった。
- コミュニケーションを重視し、単・複の形にとられないようにする。三人称単数形のsについては聞かない方がよい。

3時間目 「Whereを用いて」

学習活動

- 写真等を見せて、「Where is this?」、「Where do you want to go?」などの表現でやりとりをする。
- 国や都市の名前を学習する。

分析と改善

- 導入部(国や都市の学習)の活動が多くなり、コミュニケーション活動の時間が少なくなった。
- 導入で単語(国名)の確認ができたので生徒が興味関心を持って取り組めた。インタビューも実施でき、生徒の反応は良かった。
- 疑問詞Whereの意味を捉えられていた。

4時間目 「Whenを用いて」

学習活動

- 「When is your birthday?」の表現を使って、お互いにインタビューを行い、誕生日調べを行う。
- 月の名前の学習

分析と改善

- 『チャンツ』を取り入れた。提示は動画を使った。全員が声を出して見本と同じように言えたが、インタビュー活動では単語ひとつひとつを読み込むように戻ってしまっていた。
- もう1時間同じ授業が行えれば、チャンツの練習を通してワークシートを見ずにフレーズを覚えてやりとりを行うことができるかもしれない。

#### 5時間目 「4つの疑問詞を用いて(まとめと復習)」

##### 学習活動

- 「What ~ do you like?」「Who is this?」「Where do you want to go?」「When is your birthday?」等の前4時間での既習表現を用い、セブとレポーターという設定で、疑問詞が使われた質問をしたり答えたりする。

##### 分析と改善

- 教師による会話例の動画を提示することで生徒の集中を促し、活動を理解するのに役立った。動画での提示は再現性があるのも良かった。
- コミュニケーション活動に多く時間をとることができ教師につながされなくとも自由に取り組む事ができていた。
- セブになりきる」という設定が生徒のプレッシャーを軽減し、活動を楽しめる要因になっていた。

#### 4. 単元の評価

- 文構造の理解よりも英語での会話(やりとり)を重視したために、会話する、聞き取って同じように言うなどができるようになった。
- フレーズを聞いたたり、話すことを通したあとでコミュニケーション活動を行うのが効果的であると分かった。
- 単語(アルファベット)を書くことが苦手な生徒が多いため、ワークシートの作成を工夫し、書く量を少なくしたり、なぞり書きにするなどしたことで、授業に対する苦手意識が軽減された。
- 単語の読みの学習では、意欲的に生徒同士教え合う場面が売られた。
- 1時間に1つの疑問詞を教えて定着させるには時間数が足りなかった。

#### 5. 単元の改善点

- 本単元は5時間であったが、10時間かけて取り組めると、より理解が深まり、様々なフレーズのやりとりにも触れられる。
- 自主的に発音練習に取り組む事が難しい生徒は、学習を積み重ねることで慣れ、伸びると思われる。
- 生徒が慣れているので授業の大体は変えずに、内容を少しずつ変更してマイナーアップデートしながら実践するなどの工夫を行う。

#### 6. まとめ

- 教師は今日の授業研究や授業自体を楽しめたか? 「英題難い」を「おもしろいやん」に変えるというテーマは教師も共通する。
- 今日の授業改善の中で良かった教材や指導の工夫、単元の構成は、他の授業・単元に生かしていきたい。